

Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3)
Oracle® Solaris オペレーティングシステム
インストールガイド



Part No: E36233-01
2012 年 7 月

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are “commercial computer software” pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

このドキュメントの使用方法	5
Sun Blade X3-2B モデル名の変更	5
最新のファームウェアおよびソフトウェアの取得	5
ドキュメントとフィードバック	6
このドキュメントについて	6
サポートおよびトレーニング	6
寄稿者	7
変更履歴	7
Sun Blade X3-2B VMware ESXi Oracle Solaris オペレーティングシステムインストールガイドについて	9
Oracle Solaris OS のインストールについて	11
Oracle Solaris インストールのタスクの表	11
サポートされている OS のバージョンおよび最新情報	11
OS のインストールオプション	12
OS のインストールの準備	17
Oracle Solaris のドキュメントの入手	17
インストールセッションのセットアップ	18
BIOS の設定	22
Oracle Solaris OS のインストール	25
Oracle Solaris OS のサポートされているバージョンのインストール	25
論理および物理ネットワークインタフェース名の特定	26
サーバーシステムツールのインストール	29
システムドライバへのアクセス	30
サーバーファームウェアとソフトウェアの入手	33
ファームウェアとソフトウェアのアップデート	33
ファームウェアおよびソフトウェア入手のオプション	34
入手可能なソフトウェアリリースパッケージ	34
ファームウェアとソフトウェアの入手	36
アップデートのインストール	40

索引43

このドキュメントの使用方法

このセクションでは、システムの最新のファームウェアとソフトウェア、ドキュメントとフィードバック、およびドキュメント変更履歴の入手方法を説明します。

- 5 ページの「Sun Blade X3-2B モデル名の変更」
- 5 ページの「最新のファームウェアおよびソフトウェアの取得」
- 6 ページの「ドキュメントとフィードバック」
- 6 ページの「このドキュメントについて」
- 6 ページの「サポートおよびトレーニング」
- 7 ページの「寄稿者」
- 7 ページの「変更履歴」

Sun Blade X3-2B モデル名の変更

Sun Blade X3-2B の旧称は Sun Blade X3-2B です。この名前がまだソフトウェアに表示されている場合があります。名前の変更は、システム機能の変更を示すものではありません。

新名称の意味は次のとおりです:

- X は、x86 製品であることを意味します。
- 最初の数字 3 は、サーバーの世代を意味します。
- 2 番目の数字 2 は、プロセッサの数を意味します。
- アルファベット B は、ブレードサーバー製品であることを意味します。

最新のファームウェアおよびソフトウェアの取得

Oracle x86 サーバー、サーバーモジュール(ブレード)、およびブレードシャーシのファームウェア、ドライバ、およびその他のハードウェア関連ソフトウェアは、定期的に更新されています。

最新バージョンは次の 3 つのうちいずれかの方法で入手できます:

- Oracle System Assistant - これは、Sun Oracle x86 サーバー用の、出荷時にインストール済みの新しいオプションです。OSA は必要なすべてのツールとドライバを備えており、ほとんどのサーバーに取り付けられている USB ドライブに格納されています。

- My Oracle Support – <http://support.oracle.com>
- 物理メディアのリクエスト

詳細については、33 ページの「サーバーファームウェアとソフトウェアの入手」を参照してください。

ドキュメントとフィードバック

ドキュメント	リンク
すべての Oracle 製品	http://www.oracle.com/documentation
Sun Blade X3-2B	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=SunBladeX3-2B
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31
Oracle Hardware Management Pack	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp

このドキュメントについてのフィードバックは次からお寄せください:<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>。

このドキュメントについて

このドキュメントセットは、PDF および HTML の両形式で入手できます。情報はトピックに基づく形式 (オンラインヘルプと同様) で表示されるため、章、付録、およびセクション番号は含まれません。

特定のトピック (ハードウェア設置やプロダクトノートなど) に関するすべての情報が含まれる PDF を生成するには、HTML ページの左上にある PDF ボタンをクリックします。

サポートおよびトレーニング

次の Web サイトに追加のリソースがあります:

- サポート:<http://support.oracle.com>
- トレーニング:<http://education.oracle.com>

寄稿者

主著者: Lisa Kuder、Ray Angelo、Mark McGothigan、Cynthia Chin-Lee。

寄稿者: Yi Cai、Kenny Tung、Salomon Chavez Velazquez、Daniel Silverman、Johnny Hui、Angela Vlahos、Anand Srinivasan、Darren Tran、Mark Stanton、Denise Silverman、Ralph Woodley、Mick Tabor

変更履歴

次の一覧はこのドキュメントセットのリリース履歴です:

- 2012年4月。初版。
- 2012年5月。SW 1.0.1に合わせて更新。改訂版ドキュメントライブラリを再リリース。
- 2012年6月。SW 1.1に合わせて更新。プロダクトノートとサービスマニュアルを改訂。
- 2012年7月。サーバーモデル名の変更。全ドキュメントを改訂。

Sun Blade X3-2B VMware ESXi Oracle Solaris オ ペレーティングシステムインストールガ

イドについて

注 - 重要: Sun Blade X3-2B は以前は Sun Blade X6270 M3 サーバーモジュールという名前でした。この名前がまだソフトウェアに表示されている場合があります。名前の変更は、システム機能の変更を示すものではありません。

このドキュメントの次のセクションでは、Sun Blade X3-2B にサポート対象の Oracle Solaris OS をインストールする方法について説明します。

セクションの説明	ヘッダー
Oracle Solaris のインストールタスクの表およびサポートされているバージョンおよびインストールオプションについての情報。	11 ページの「Oracle Solaris OS のインストールについて」
インストール前の準備手順および考慮事項。	17 ページの「OS のインストールの準備」
インストール手順。	25 ページの「Oracle Solaris OS のインストール」

Oracle Solaris OS のインストールについて

Oracle Solaris インストールのタスクの表

次のタスクの表を使用して、Sun Blade X3-2B に Oracle Solaris のサポートされているバージョンをインストールします。

手順	説明	リンク
1	サポートされている Windows OS のバージョンの一覧を確認し、サーバーソフトウェアおよびハードウェアに関する最新情報を取得する方法を学習します。	11 ページの「サポートされている OS のバージョンおよび最新情報」
2	単一のサーバーまたは複数のサーバーでの OS のインストールのオプションを確認します。	12 ページの「OS のインストールオプション」
3	Oracle System Assistant の概要およびそれを使用してサーバーを管理する方法について確認します。	14 ページの「Oracle System Assistant」
4	必要な手順を実行して、OS のインストールの準備を行います。	17 ページの「OS のインストールの準備」

サポートされている OS のバージョンおよび最新情報

このセクションを使用して、Oracle Solaris オペレーティングシステム (OS) のサポートされているバージョンおよび最新のサーバー関連情報を取得する方法について学習します:

- [12 ページの「サポートされている Oracle Solaris Operating System のバージョン」](#)
- [12 ページの「プロダクトノートの最新情報」](#)

サポートされている Oracle Solaris Operating System のバージョン

このドキュメントの発行時点で、Sun Blade 6270 M3 サーバーモジュールは次の Oracle Solaris オペレーティングシステムをサポートします:

- Oracle Solaris 10 08/11
- Oracle Solaris 11

サポートされているオペレーティングシステムの一覧の更新については、サーバーの『プロダクトノート』ドキュメントを参照してください。

関連情報: [12 ページの「プロダクトノートの最新情報」](#)

プロダクトノートの最新情報

サーバーの最新情報は、『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) プロダクトノート』に記載されています。『プロダクトノート』には、サーバーの利用可能なファームウェア更新およびハードウェアまたはソフトウェアの問題に関する詳細情報が記載されています。このドキュメントおよびその他のサーバー関連のドキュメントは、サーバーのドキュメントライブラリでオンラインで入手できます:<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=SunBladeX3-2B>

OS のインストールオプション

OS を単一のサーバーにインストールするか、複数のサーバーにインストールするかを選択できます。このドキュメントの適用範囲は、単一のサーバーでの OS のインストールです。次の表に、これらの2つのインストールオプションに関する情報を示します。

オプション	説明
複数のサーバー	http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager/opscenter/index.html を参照してください。

オプション	説明
単一のサーバー	次のいずれかの方法を使用して、単一のサーバーに OS をインストールします: <ul style="list-style-type: none"> ローカル: OS のインストールは、サーバーでローカルに実行されません。このオプションは、物理的にラックにサーバーを設置し終えたばかりのときにお勧めします。追加のハードウェアが必要です。 リモート: OS のインストールはリモートの場所から実行されません。Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用して、Oracle System Assistant にアクセスするか、手動による OS のインストールを実行します。

関連情報:

- 13 ページの「単一サーバーへのインストール方法」

単一サーバーへのインストール方法

Oracle Solaris インストールメディアの配布方法を選択します。次の情報を使用して、ローカルかリモートのどちらの OS のインストールがニーズにもっとも適しているかを判断します。

メディアの配布方法	その他の要件
ローカルでの補助付き OS インストール - Oracle System Assistant を使用します。	モニター、USB キーボードとマウス、USB デバイス、および Oracle Solaris 配布メディア。詳細については、 14 ページの「補助付き OS インストール」 を参照してください。
リモートでの補助付き OS インストール - Oracle System Assistant を使用します。	Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーション、リダイレクト先の CD/DVD ドライブまたは ISO イメージファイル、および Oracle Solaris 配布メディア。詳細については、 14 ページの「補助付き OS インストール」 を参照してください。
ローカルでの CD/DVD ドライブの使用 - サーバーに接続した物理 CD/DVD ドライブを使用します。	モニター、USB キーボードとマウス、USB CD/DVD ドライブ、および Oracle Solaris 配布メディア。詳細については、 14 ページの「手動による OS インストール」 を参照してください。
CD/DVD ドライブまたは CD/DVD ISO イメージを使用するリモート - JavaRConsole Oracle ILOM アプリケーションを実行しているリモートシステム上でリダイレクト先の物理 CD/DVD ドライブを使用します。	ブラウザを実行しているリモートシステム、物理 CD/DVD ドライブが接続されていること、Oracle Solaris 配布メディア、サーバーの管理ポートに対するネットワークアクセス。詳細については、 14 ページの「手動による OS インストール」 を参照してください。

補助付き OS インストール

注 - Oracle System Assistant は、現時点では、Oracle Solaris OS の補助付きインストールをサポートしません。

これは、サポートされている OS をサーバーにインストールするためのもっとも簡単な方法です。この方法では、Oracle System Assistant アプリケーションを使用します。ローカルまたはリモートの CD/DVD ドライブまたは CD/DVD イメージで Oracle Solaris OS インストールメディアを提供し、Oracle System Assistant の OS インストールタスクを使用してインストールプロセスを開始します。OS のインストールタスクを使用するには、Oracle System Assistant がその OS の補助付きインストールをサポートしている必要があります。

サーバー関連の更新および情報については、『[Sun Blade X3-2B \(旧 Sun Blade X6270 M3\) プロダクトノート](#)』を参照してください。

手動による OS インストール

この方法では、Oracle Solaris 配布メディアをローカルまたはリモートの CD/DVD ドライブ、USB デバイス、または CD/DVD イメージで提供します。必要なドライバを提供する必要もあります。サーバー用のドライバは、My Oracle Support サイトからサーバー固有および OS 固有のパッケージとして入手できます。OS をインストールするには、配布メディアのインストールスクリプトを使用します。

関連情報:[14 ページの「Oracle System Assistant」](#)

Oracle System Assistant

Oracle System Assistant は、x86 Sun Fire および Sun Blade サーバー用の単一のサーバーでシステムをセットアップおよび保守するためのツールです。これは、Oracle の Single System Management 製品と一連の関連ソフトウェアを統合して、サーバーを迅速かつ簡単に起動し保守できるようにするツール群を提供します。Oracle System Assistant のコンポーネントは次のとおりです：

- Hardware Management Pack
- 起動と保守のプロビジョニングタスク (OS のインストールタスクを含む*) へのユーザーインタフェースアクセス
- Oracle Linux コマンド行環境
- オペレーティングシステムが使用するドライバとツール
- サーバー固有のファームウェア
- サーバー関連ドキュメント

Oracle System Assistant は、サーバーにインストールされ、オンラインアップデートなどを使用して保守されるサーバー固有バージョンのツールとドライバとともに工場
で構成されます。

* OS のインストールは、一部のオペレーティングシステムではサポートされませ
ん。

関連情報: 『[Sun Blade X3-2B \(旧 Sun Blade X6270 M3\) 管理ガイド](#)』を参照してくださ
い。

OS のインストールの準備

このセクションでは、OS のインストールの準備手順について説明します。次のタスク表をガイドとして使用してください。

手順	タスク	リンク
1	OS インストールのタスクの表をすでに確認している必要があります。	11 ページの「Oracle Solaris OS のインストールについて」
2	インストールドキュメントを入手します。	17 ページの「Oracle Solaris のドキュメントの入手」
3	選択したインストール方法に基づいてインストールのセットアップを行います。	18 ページの「インストールセッションのセットアップ」
4	最適なデフォルト値をロードし、BIOS モードを選択して、BIOS を準備します。	22 ページの「BIOS の設定」
5	OS のインストールおよび更新	25 ページの「Oracle Solaris OS のインストール」

Oracle Solaris のドキュメントの入手

Oracle Solaris オペレーティングシステムのサポート対象バージョンのドキュメントは次の Web サイトで入手できます:

- Oracle Solaris 10: <http://download.oracle.com/docs/cd/E19253-01/index.html>
- Oracle Solaris 11: <http://www.oracle.com/technetwork/documentation/solaris-11-192991.html>

注 - Oracle Solaris のドキュメントは、Oracle Solaris OS ソフトウェアに同梱の Documentation DVD にも収録されています。

インストールセッションのセットアップ

このセクションでは、ローカルまたはリモートインストールセッションをセットアップする方法について説明します。ローカル OS インストールはサーバーで実行されます。リモート OS インストールは、JavaRConsole System、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーション、およびリダイレクトされた CD/DVD ドライブまたは CD ISO イメージを使用して実行されます。

- [18 ページの「ローカルインストールの設定」](#)
- [19 ページの「リモートインストールのセットアップ」](#)

▼ ローカルインストールの設定

この手順を使用して、ローカルインストールをセットアップします。

注 - ローカル OS インストールの場合、追加のハードウェアが必要で、サーバーの Web アクセスが推奨されます。

- 始める前に
- 『[Sun Blade X3-2B \(旧 Sun Blade X6270 M3\) 設置ガイド](#)』に記載されているとおり、サーバーのインストールをすでに実行しているはずです。
 - 次のアイテムが必要です:
 - 15 ピン (DB-15) コネクタ機能を備えたビデオモニター
 - USB キーボードとマウス
 - USB デバイス (CD/DVD ドライブまたはサムドライブ)
 - サーバーに含まれる更新が確実に最新のものになるようにするために、サーバーの Web アクセスが推奨されます。
- 1 サーバーがスタンバイ電力モードであることを確認します。
 - 2 サーバーモジュールの前面にあるユニバーサルコネクタポート (UCP) に 3 ケーブルドングルを接続します。
 - 3 ビデオモニターを 3 ケーブルドングルのビデオコネクタに接続します。
 - 4 キーボードおよびマウスをサーバーの前面の USB 接続のいずれかに (または 3 ケーブルドングルの USB コネクタのいずれかに) 接続します。
 - 5 CD/DVD ドライブをサーバーの前面のほかの USB ドライブに (または 3 ケーブルドングルの USB コネクタのいずれかに) 接続します。

次の手順 [22 ページの「BIOS の設定」](#)

▼ リモートインストールのセットアップ

この手順を使用して、リモートインストールをセットアップします。

注- CD-ROM または CD-ROM イメージのオプションを使用して OS をインストールすると、CD-ROM のコンテンツにネットワーク経由でアクセスするため、インストールにかかる時間が大幅に長くなります。インストールの所要時間は、ネットワークの接続状態とトラフィックによって異なります。また、このインストール方法では、一時的なネットワークエラーにより問題が生じるリスクが高くなります。

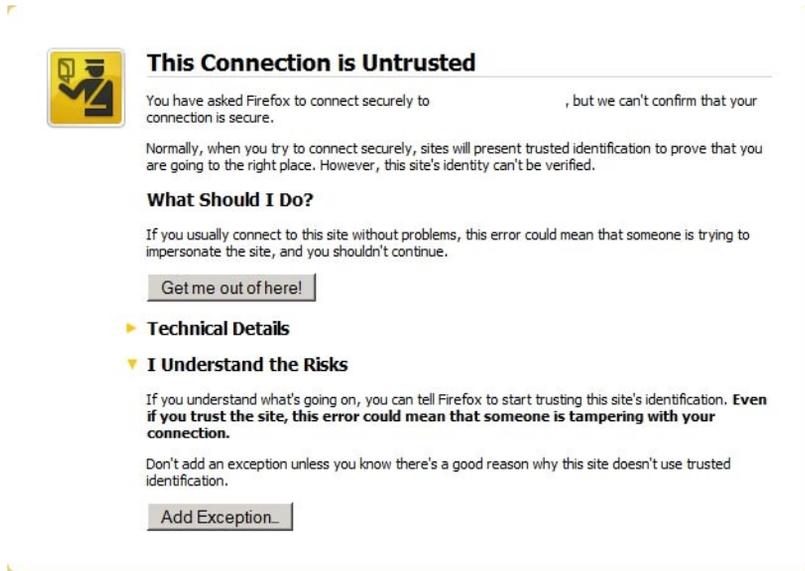
始める前に 次の要件が満たされている必要があります:

- 『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) 設置ガイド』に記載されているとおり、サーバーのインストールをすでに実行しているはずです。
- JavaRConsole システムが、Oracle Solaris、Linux、または Windows で実行されている必要があります。
- Sun サーバーの Ethernet 管理ポートにアクセスできるネットワークに JavaRConsole システムが接続されている必要があります。
- Java Runtime Environment (JRE) 1.5 をインストールする必要があります。
- JavaRConsole システムで Solaris を実行している場合は、JavaRConsole が CD/DVD-ROM ドライブにアクセスできるように、ボリューム管理を無効にする必要があります。
- JavaRConsole システムが Windows を実行している場合は、Internet Explorer の拡張セキュリティ機能を無効にします。
- サーバーサービスプロセッサ (SP) が、使用しているサーバーの Oracle ILOM ドキュメントの手順に従ってセットアップ済みです。
- Oracle ILOM にアクセスするための SP IP アドレスが必要です。SP IP アドレスの特定については、『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) 設置ガイド』を参照してください。
- サーバーに含まれる更新が確実に最新のものになるようにするために、サーバー Web アクセスが必要です。

注- この手順に示されているスクリーンショットの一部は、表示される画面とは異なる場合があります。

- 1 Oracle ILOM にアクセスするには、JavaRConsole システムで Web ブラウザにサービスプロセッサの IP アドレスを入力します。

「Security Alert」ダイアログボックスが表示されます。



- 2 「I Understand the Risks」リンクをクリックします。

- 3 「Add Exception」をクリックします。

Oracle ILOM ログイン画面が表示されます。



- 4 ユーザー名とパスワードを入力し、「Log In」をクリックします。
デフォルトのユーザー名は **root**、パスワードは **changeme** です。
Oracle ILOM の「System Summary」画面が表示されます。

System Information Summary
View system summary information. You may also change power state and view system status and fault information.

General Information	
Model	-
Serial Number	-
System Type	-
System Identifier	-
System Firmware Version	-
Primary Operating System	-
Host Primary MAC Address	-
Blade Slot	-
ILOM Address	-
ILOM MAC Address	-

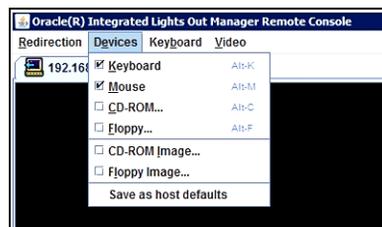
Actions	
Power State	<input checked="" type="checkbox"/> ON <input type="button" value="Turn Off"/>
Locator Indicator	<input checked="" type="checkbox"/> OFF <input type="button" value="Turn On"/>
Oracle System Assistant Version:	<input type="button" value="Launch"/>
System Firmware Update	<input type="button" value="Update"/>
Remote Console	<input type="button" value="Launch"/>

Status			
Overall Status: ❌ Service Required Total Problem Count: 2			
Subsystem	Status	Details	Inventory
Processors	<input checked="" type="checkbox"/> OK	Processor Architecture: x86 64-bit Processor Summary: 2 Intel Xeon Processor E5 Series	Processors (Installed / Maximum): 2 / 2
Memory	<input checked="" type="checkbox"/> OK	Installed RAM Size: 96 GB	DIMMs (Installed / Maximum): 24 / 24
Power	<input checked="" type="checkbox"/> OK	Permitted Power Consumption: 403 watts Actual Power Consumption: 69 watts	PSUs (Installed / Maximum): 2 / 2
Cooling	<input checked="" type="checkbox"/> OK	Inlet Air Temperature: 22 °C Exhaust Air Temperature: 29 °C	Fans (Installed / Maximum): 12 / 12

- 5 「Remote Console Launch」 ボタンをクリックします。
jnlpgenerator.jnlp ファイルのダイアログボックスが表示されます。



- 6 「Open」 をクリックします。
JavaRConsole 画面が表示されます。



- 7 「Devices」メニューから、選択した配布方法に従って1つのCDアイテムを選択します。

- **CD-ROM** リモート。JavaRConsole システムに接続された CD/DVD-ROM ドライブからオペレーティングシステムソフトウェア CD/DVD のコンテンツにサーバーをリダイレクトする場合は、「CD-ROM」を選択します。
- **CD-ROM** イメージ。JavaRConsole システム上にあるオペレーティングシステムソフトウェアの .iso イメージファイルにサーバーをリダイレクトする場合は、「CD-ROM Image」を選択します。

次の手順 [22 ページの「BIOS の設定」](#)

BIOS の設定

オペレーティングシステムをインストールする前に、実行する予定のインストールの種類をサポートするように、BIOS 設定が構成されていることを確認する必要があります。次のトピックでは、インストールをサポートするように BIOS を構成する方法について具体的に説明しています:

- [22 ページの「BIOS の最適なデフォルト設定のロード」](#)
- [23 ページの「BIOS モードの設定」](#)

▼ BIOS の最適なデフォルト設定のロード



注意- この手順では、BIOS の設定をデフォルト値に戻し、これまでのカスタマイズ内容をすべて上書きします。カスタマイズされた設定を維持するには、デフォルト値をロードする前に、各メニューを確認し、カスタマイズされた値を書きとめます。

BIOS 設定ユーティリティーには、サーバーにとって最適な BIOS 設定をロードするためのオプションが含まれています。この手順を新しく設置されたサーバーで実行して、BIOS が最適なデフォルト値に設定されるようにします。

- 始める前に
- サーバーにはストレージドライブが適切に取り付けられています。
 - サーバーへのコンソール接続が確立されている。詳細については、[18 ページの「インストールセッションのセットアップ」](#)を参照してください。
- 1 サーバーの電源を入れます。
ビデオ (KVM または RKVM) コンソールに POST メッセージが表示されます。
 - 2 メッセージに注目し、プロンプトが表示されたら、**F2** を押して **BIOS 設定ユーティリティー** にアクセスします。
BIOS 設定ユーティリティーのメイン画面が表示されます。

- 3 出荷時のデフォルト値が設定されるようにするには、**F9**を押します。
- 4 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティーを終了するには、**F10**を押します。

次の手順 23 ページの「BIOS モードの設定」

▼ BIOS モードの設定

BIOS ファームウェアは、レガシー BIOS と UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) の両方をサポートしていますが、デフォルト設定は Legacy です。オペレーティングシステムによっては、レガシー BIOS と UEFI BIOS の両方をサポートしているものもあれば、レガシー BIOS のみをサポートしているものもあります。これらは、OS をインストールする前に BIOS モードを設定するためのオプションです:

- OS がレガシー BIOS だけをサポートしている場合は、OS のインストールを行う前に、BIOS がレガシーモードに設定されていることを確認する必要があります。
- OS がレガシー BIOS と UEFI BIOS の両方をサポートしている場合は、OS のインストールを実行する前に、レガシーモードと UEFI モードのどちらかに BIOS を設定できます。

注 - Sun Blade X6270 M2 サーバーの初期リリース時、Oracle Solaris OS は UEFI BIOS をサポートしません。サーバーハードウェアおよびソフトウェアに関する最新情報については、『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) プロダクトノート』を参照してください。

- 1 サーバーの電源を入れます。
コンソールに POST メッセージが表示されます。
- 2 メッセージに注目し、プロンプトが表示されたら、**F2**を押して BIOS 設定ユーティリティーにアクセスします。
BIOS 設定ユーティリティーのメイン画面が表示されます。
- 3 BIOS 設定ユーティリティーで、左右の矢印キーを使用して「Boot」画面に移動します。
「Boot Menu」画面が表示されます。
- 4 下矢印キーを使用して、「UEFI/BIOS Boot Mode」フィールドを選択します。
- 5 **Enter** キーを押し、上下の矢印キーを使用して「Legacy BIOS」を選択します。
- 6 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティーを終了するには、**F10**を押します。

次の手順 [25 ページの「Oracle Solaris OS のインストール」](#)

Oracle Solaris OS のインストール

このセクションでは、Oracle Solaris OS をインストールする方法について説明します。論理および物理ネットワークインタフェース名の特定手順およびサーバーシステムツールのインストール手順についても説明します。

手順	説明	リンク
1	インストールを開始します。	25 ページの「Oracle Solaris OS のサポートされているバージョンのインストール」
2	ネットワークに接続されたサーバーのオペレーティングシステムの構成時には、各ネットワークインタフェースの (OS に よって割り当てられた) 論理名および物理名 (MAC アドレス) を指定しなければならない場合があります。	26 ページの「論理および物理ネットワークインタフェース名の特定」
3	Oracle Solaris OS システムツールをインストールし、Oracle System Assistant ソフトウェアおよびダウンロードしたソフトウェアパッケージに含まれているドライバにアクセスします。	<ul style="list-style-type: none">29 ページの「サーバーシステムツールのインストール」30 ページの「システムドライバへのアクセス」

▼ Oracle Solaris OS のサポートされているバージョンのインストール

この手順を使用し、CD/DVD インストールメディアまたは ISO イメージを使って OS をローカルまたはリモートにインストールします。

- 始める前に
- 17 ページの「OS のインストールの準備」セクションの手順を実行します。
 - Solaris OS のインストールドキュメントを確認します:
 - Oracle Solaris 10: <http://download.oracle.com/docs/cd/E19253-01/index.html>
 - Oracle Solaris 11: <http://www.oracle.com/technetwork/documentation/solaris-11-192991.html>

- 1 インストールメディアがプライマリブートドライブにインストールされていることを確認します。
- 2 サーバーの電源を入れます。
サーバーは CD/DVD または CD/DVD ISO イメージからブートし、「Solaris Installation Program」画面が表示されます。
- 3 テキストまたは GUI ベースのインストールプログラムを使用して OS をインストールします。

▼ 論理および物理ネットワークインタフェース名の特定

ネットワークに接続されたサーバーのオペレーティングシステムの構成時には、各ネットワークインタフェースの (OS によって割り当てられた) 論理名および物理名 (MAC アドレス) を指定しなければならない場合があります。ここでは、この情報を取得する方法を説明します。

論理名および物理名 (MAC アドレス) を含む、MAC アドレスとネットワークインタフェースに関する情報を表示するには、この手順を使用します。

- 1 「Install Type」メニューで、「Option (6) Single User Shell」を選択して、**Enter** を押しません。

注 - 別の方法として、これらのコマンドをコマンドシェルから実行することもできます。

OS インスタンスのマウントに関するメッセージが表示されたら、**q** を選択します。OS インスタンスはマウントしません。

メッセージ "Starting Shell" が表示されます。次の図を参照してください。

```
1. Solaris Interactive (default)
2. Custom JumpStart
3. Solaris Interactive Text (Desktop session)
4. Solaris Interactive Text (Console session)
5. Apply driver updates
6. Single user shell

Enter the number of your choice.
Selected: 6

Single user shell.

Searching for installed OS instances...

Multiple OS instances were found. To check and mount one of them
read-write under /a, select it from the following list. To not mount
any, select 'q'.

 1 /dev/dsk/c2t0d0s0 Solaris 10 6/06 s10x_u2wos_08 X86
 2 /dev/dsk/c2t1d0s0 Solaris 10 6/06 s10u2_08-0N-WDS X86

Please select a device to be mounted (q for none) [?,??,q]: q

Starting shell.
#
```

- 2 コマンドプロンプト(#)で次のコマンドを入力して、すべてのネットワークインタフェースを **plumb** します。

```
# ifconfig -a plumb
```

注-plumb プロセスには時間がかかることがあります。

- 3 コマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# ifconfig -a
```

Solaris の名前付きインタフェースおよび MAC アドレスの出力が表示されます。例:

```
# ifconfig -a lmore
e1000g0: flags=1000802<BROADCAST,MULTICAST,IPv4> mtu 1500 index 2
    inet 0.0.0.0 netmask 0
    ether 0:14:4f:c:a1:ee
e1000g1: flags=1000802<BROADCAST,MULTICAST,IPv4> mtu 1500 index 3
    inet 0.0.0.0 netmask 0
    ether 0:14:4f:c:a1:ef
e1000g2: flags=1000802<BROADCAST,MULTICAST,IPv4> mtu 1500 index 4
    inet 0.0.0.0 netmask 0
    ether 0:14:4f:c:a5:d6
e1000g3: flags=1000802<BROADCAST,MULTICAST,IPv4> mtu 1500 index 5
    inet 0.0.0.0 netmask 0
    ether 0:14:4f:c:a5:d7
e1000g4: flags=1000802<BROADCAST,MULTICAST,IPv4> mtu 1500 index 6
    inet 0.0.0.0 netmask 0
    ether 0:14:4f:c:a1:4e
e1000g5: flags=1000842<BROADCAST,RUNNING,MULTICAST,IPv4> mtu 1500 index 1
    inet 0.0.0.0 netmask 0
    ether 0:14:4f:c:a1:4f
e1000g6: flags=1000802<BROADCAST,MULTICAST,IPv4> mtu 1500 index 7
    inet 0.0.0.0 netmask 0
    ether 8:0:20:b6:ce:94
e1000g7: flags=1000802<BROADCAST,MULTICAST,IPv4> mtu 1500 index 8
    inet 0.0.0.0 netmask 0
```

上の出力例:

- 最初の列の `e1000g#` エントリは、Solaris 論理名付きインタフェースです。出力の最初の列は、Solaris がネットワークインタフェースに割り当てた論理名を表します。
- 2 列目 (3 行目) の `ether #:#:#:#:#` エントリは、ネットワークポートの物理 MAC アドレス名です。

例:

Solaris の名前付きネットワークインタフェース「`e1000g0`」の物理 MAC アドレスは、「`0:14:4f:c:a1:ee`」です。

- 4 この情報をファイルに保存するか、書きとめます。
- 5 終了したら、システム構成スクリプトを起動するために、コマンドラインで `sys-unconfig(1M)` と入力します。
このコマンドは、システム構成を工場出荷時のデフォルトに復元します。



注意 - `sys-unconfig(1M)` コマンドを実行するとシステムが停止し、工場出荷時の設定が復元されます。このコマンドは、システムを再構成する場合以外は実行しないでください。

例:

```
# sys-unconfig
WARNING
This program will unconfigure your system. It will cause it
to revert to a "blank" system - it will not have a name or know
about other systems or networks.
This program will also halt the system.
Do you want to continue (y/n) ?
```

システムがリブートされ、構成スクリプトが開始されます。

▼ サーバシステムツールのインストール

LSI MegaRAID Storage Manager (LSI MSM)、MegaCLI、および Oracle Hardware Management Pack を含むサーバシステムツールは、Oracle System Assistant ソフトウェアおよびダウンロードした Solaris OS ソフトウェアパッケージに含まれています。この手順を使用して、サーバシステムツールにアクセスし、インストールします。

1 次のいずれかを実行します:

- システムに **Oracle System Assistant** がない場合:
 - a. **My Oracle Support** サイトから最新のサーバシステムツールおよびドライバパッケージをダウンロードします。
詳細については、[33 ページの「サーバファームウェアとソフトウェアの入手」](#)を参照してください。
 - b. ダウンロードしたツールおよびドライバパッケージをサーバーに解凍します。
 - c. 解凍されたファイルシステム内で、**Solaris OS Tools** フォルダに移動します:
Solaris/ OS_name/Tools
ここで、OS_name は、インストールされた Solaris OS です。
- システムに **Oracle System Assistant** がある場合:
 - a. OS 内でファイルブラウザを開き、**Oracle System Assistant USB** デバイスに移動します。
USB デバイスの名前: ORACLE_SSM
USB のマウント手順については、『[Sun Blade X3-2B \(旧 Sun Blade X6270 M3\) 管理ガイド](#)』を参照してください。

- b. 適切な **Solaris OS Tools** フォルダに移動します:

`Solaris/OS_name/Tools`

ここで、`OS_name` は、インストールされた Solaris OS です。

- 2 ツールをインストールするには、次を行います:

- **LSI MSM** の場合:

注-Tools/MSMディレクトリにある `readme.txt` ファイルには、LSI MSM のインストールに関する重要な情報が含まれています。

- a. **MSM/disk** ディレクトリに移動し、`install.sh` ファイルを実行します。

これにより、インストールスクリプトが開始されます。

- b. スクリプトの進捗に従ってインストールを完了します。

詳細については、次の Web サイトにある LSI MSM インストール手順を参照してください:http://www.lsi.com/sep/Pages/oracle/sg_x_sas6-r-rem-z.aspx

- **MegaCLI** の場合:

注-Tools/MegaCLIディレクトリにある `readme.txt` ファイルには、インストールに関する重要な情報が含まれています。

- a. **MegaCLI** ディレクトリに移動し、**MegaCLI** ファイルを実行します。

- **Oracle Hardware Management Pack** の場合:

- a. `hmp-prerequisite-installation.txt` ReadMe ファイル

(`hmp-tools/oracle-hmp-version/SOFTWARE` ディレクトリ内) を参照してください (ここで、`version` は、**Oracle Hardware Management Pack** のバージョンです)。

詳細については、次の Web サイトにある Oracle Hardware Management Pack ドキュメントを参照してください:<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp>。

▼ システムドライバへのアクセス

この手順では、Oracle System Assistant および OS 固有のダウンロードパッケージの `Drivers` ディレクトリにアクセスする方法について説明します。

- 1 次のいずれかを実行します:
 - システムに **Oracle System Assistant** がない場合:
 - a. **My Oracle Support** サイトから最新のサーバーシステムツールおよびドライバパッケージをダウンロードします。
詳細については、[33 ページの「サーバーファームウェアとソフトウェアの入手」](#)を参照してください。
 - b. ダウンロードしたツールおよびドライバパッケージをサーバーに解凍します。
 - c. 解凍されたファイルシステム内で、**Solaris OS Drivers** フォルダに移動します:
Solaris/*OS_name*/Drivers
ここで、*OS_name* は、インストールされた Solaris OS です。
 - システムに **Oracle System Assistant** がある場合:
 - a. OS から、**Oracle System Assistant USB** デバイスに移動します。
USB デバイスの名前: ORACLE_SSM
USB のマウント手順については、『[Sun Blade X3-2B \(旧 Sun Blade X6270 M3\) 管理ガイド](#)』を参照してください。
 - b. 適切な **Solaris OS Drivers** フォルダに移動します:
Solaris/*OS_name*/Drivers
ここで、*OS_name* は、インストールされた Solaris OS です。
- 2 ドライバフォルダに移動します。

サーバーファームウェアとソフトウェアの入手

このセクションでは、サーバーのファームウェアとソフトウェアにアクセスするためのオプションについて説明します。

説明	リンク
ファームウェアとソフトウェアのアップデートについて説明します。	33 ページの「ファームウェアとソフトウェアのアップデート」
ファームウェアとソフトウェアを入手するためのオプションについて学習します。	34 ページの「ファームウェアおよびソフトウェア入手のオプション」
入手可能なファームウェアとソフトウェアのパッケージを示します。	34 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」
Oracle System Assistant、My Oracle Support、または物理メディアのリクエストによって、ファームウェアとソフトウェアのパッケージを入手します。	36 ページの「ファームウェアとソフトウェアの入手」
ファームウェアとソフトウェアのアップデートをインストールします。	40 ページの「アップデートのインストール」

ファームウェアとソフトウェアのアップデート

サーバー用のハードウェアドライバやツールなどのファームウェアおよびソフトウェアは、定期的に更新されます。アップデートはソフトウェアリリースとして公開されます。ソフトウェアリリースは、サーバーで使用できるすべてのファームウェア、ハードウェアドライバ、およびユーティリティを含む、ダウンロード(パッチ)のセットです。これらはすべてまとめてテストされています。ダウンロードに含まれている Read Me ドキュメントに、前回のソフトウェアリリースから変更された点と変更されていない点が説明されています。

サーバーのファームウェアとソフトウェアは、ソフトウェアリリースが入手可能になりしだい、更新してください。ソフトウェアリリースには、多くの場合はバグの修正が含まれていて、更新によってサーバーモジュールソフトウェアは、最新のシャーシファームウェアおよびその他のシャーシコンポーネントのファームウェアやソフトウェアとの互換性を確保できます。

ダウンロードパッケージ内の Read Me ファイルおよび『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) プロダクトノート』には、ダウンロードパッケージ内の更新済みのファイル、および現在のリリースで修正されているバグに関する情報が記載されています。さらに、プロダクトノートには、最新のシャーシのファームウェアでサポートされているサーバーモジュールソフトウェアのバージョンに関する情報も記載されています。

ファームウェアおよびソフトウェア入手のオプション

次のオプションのいずれかを使用して、サーバーの最新ファームウェアおよびソフトウェアセットを入手します:

- **Oracle System Assistant** – Oracle System Assistant は、出荷時にインストールされる Oracle サーバー用の新しいオプションであり、サーバーのファームウェアおよびソフトウェアを簡単にダウンロードおよびインストールできるように支援します。

Oracle System Assistant の使用方法の詳細は、『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) 管理ガイド』の「Oracle ILOM Web インタフェースからの Oracle System Assistant へのアクセス」を参照してください。

- **My Oracle Support** – システムのすべてのファームウェアとソフトウェアは、My Oracle Support (<http://support.oracle.com>) から入手できます。

My Oracle Support で入手できるものの詳細は、34 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」を参照してください。

My Oracle Support からソフトウェアリリースをダウンロードする方法は、36 ページの「My Oracle Support を使用してファームウェアとソフトウェアをダウンロードする」を参照してください。

- **物理メディアのリクエスト (PMR)** – My Oracle Support から入手できるダウンロード (パッチ) が含まれている DVD をリクエストできます。

詳細は、38 ページの「物理メディアのリクエスト (オンライン)」を参照してください。

入手可能なソフトウェアリリースパッケージ

My Oracle Support では、ダウンロードは製品ファミリ、製品、およびバージョン別にグループ分けされています。バージョンには1つ以上のダウンロード (パッチ) が含まれます。

サーバーとブレードの場合、パターンは似ています。製品種別はサーバーです。サーバーごとにリリースセットが含まれます。これらのリリースは本当のソフトウェア製品のリリースではなく、サーバー用のアップデートのリリースです。これらのアップデートはソフトウェアリリースと呼ばれ、まとめてテスト済みの複数

のダウンロードで構成されます。各ダウンロードには、ファームウェア、ドライバ、またはユーティリティが含まれます。

My Oracle Support には、次の表に示したとおりの、このサーバーファミリ向けのダウンロードタイプのセットが含まれます。これらは物理メディアのリクエスト (PMR) によってリクエストすることもできます。Oracle System Assistant を使用しても、同じファームウェアおよびソフトウェアをダウンロードできます。

パッケージ名	説明	このパッケージをダウンロードするタイミング
X3-2B SW <i>version</i> – Firmware Pack	Oracle ILOM、BIOS、およびオプションカードファームウェアを含む、すべてのシステムファームウェア。	最新のファームウェアが必要なとき。
X3-2B SW <i>version</i> – OS Pack	OS パックは、サポートされているオペレーティングシステムのバージョンごとに入手できます。各 OS パックには、該当のバージョンの OS 用のすべてのツール、ドライバ、およびユーティリティのパッケージが含まれていません。 ソフトウェアには、Oracle Hardware Management Pack および LSI MegaRAID ソフトウェアが含まれます。	OS 固有のドライバ、ツール、またはユーティリティをアップデートする必要があるとき。
X3-2B SW <i>version</i> – All packs	Firmware Pack、すべての OS Pack、およびすべてのドキュメントを含みます。 このパックに SunVTS または Oracle System Assistant のイメージは含まれません。	システムファームウェアと OS 固有ソフトウェアの組み合わせをアップデートする必要があるとき。
X3-2B SW <i>version</i> – Diagnostics	SunVTS 診断イメージ。	SunVTS 診断イメージが必要なとき。
X3-2B SW <i>version</i> – Oracle System Assistant Updater	Oracle System Assistant アップデータおよび ISO アップデータイメージ。	Oracle System Assistant を手動で復旧またはアップデートする必要があるとき。

各ダウンロードは zip ファイルで、Read Me と、ファームウェアまたはソフトウェアのファイルを含むサブディレクトリのセットが含まれています。Read Me ファイルに

は、前回のソフトウェアリリース以降に変更されたコンポーネントと、修正済みのバグの詳細が記載されています。これらのダウンロードのディレクトリ構造の詳細は、『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) 管理ガイド』を参照してください。

ファームウェアとソフトウェアの入手

このセクションでは、ソフトウェアリリースファイルをダウンロードまたはリクエストする方法について説明します。

注 - Oracle System Assistant を使用して、最新のソフトウェアリリースを簡単にダウンロードして使用することもできます。詳細は、『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) 管理ガイド』を参照してください。

アップデートされたファームウェアとソフトウェアには、ほかにも2つの入手方法があります。

- 36 ページの「My Oracle Support を使用してファームウェアとソフトウェアをダウンロードする」
- 37 ページの「物理メディアをリクエストする」

▼ My Oracle Support を使用してファームウェアとソフトウェアをダウンロードする

- 1 <http://support.oracle.com> にアクセスします
- 2 My Oracle Support にサインインします。
- 3 ページ上部にある「パッチと更新版」タブをクリックします。
「パッチと更新版」画面が表示されます。
- 4 「検索」画面で、「製品またはファミリー (拡張検索)」をクリックします。
画面に検索フィールドが表示されます。
- 5 「製品」フィールドで、ドロップダウンリストから製品を選択します。
あるいは、製品名 (たとえば、Sun Blade X3-2B) の全体または一部を、一致するものが表示されるまで入力します。

- 6 「リリース」フィールドで、ドロップダウンリストからソフトウェアリリースを選択します。
入手可能なすべてのソフトウェアリリースを表示するには、フォルダを展開します。
- 7 「検索」をクリックします。
ソフトウェアリリースは、ダウンロード(パッチ)のセットで構成されます。
入手可能なダウンロードの説明については、[34 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」](#)を参照してください。
- 8 パッチを選択するには、パッチ名の横にあるチェックボックスをクリックします(複数のパッチを選択できます)。
アクションパネルがポップアップ表示されます。このパネルには複数のアクションのオプションが表示されます。
- 9 アップデートをダウンロードするには、ポップアップパネルの「ダウンロード」をクリックします。
自動的にダウンロードが開始されます。

物理メディアをリクエストする

手続き上、Oracle Web サイトからダウンロードできない場合は、物理メディアのリクエスト (PMR) によって最新のソフトウェアリリースを入手できます。

次の表で、物理メディアのリクエストを行うための大まかなタスクについて説明し、詳細情報のリンクを示します。

説明	リンク
リクエストを行うために必要な情報を収集します。	37 ページの「物理メディアのリクエスト用の情報を収集する」
オンラインで、または Oracle サポートに電話することで、物理メディアをリクエストします。	38 ページの「物理メディアのリクエスト(オンライン)」 39 ページの「物理メディアのリクエスト(電話)」

物理メディアのリクエスト用の情報を収集する

物理メディアのリクエスト (PMR) を行うには、サーバーの保証またはサポート契約が必要です。

PMR を実行する前に、次の情報を収集します:

- 製品名、ソフトウェアリリースのバージョン、および必要なパッチを把握します。最新のソフトウェアリリースと、リクエストするダウンロードパッケージ(パッチ)の名前がわかっていると、より簡単にリクエストを行うことができます。
- *My Oracle Support* にアクセスできる場合 - 36 ページの「[My Oracle Support を使用してファームウェアとソフトウェアをダウンロードする](#)」の手順に従って、最新のソフトウェアリリースを確認し、入手可能なダウンロード(パッチ)を表示します。パッチのリストを表示したあとに、ダウンロード手順を続けない場合は、「パッチ検索結果」ページから移動できます。
- *My Oracle Support* にアクセスできない場合 - 34 ページの「[入手可能なソフトウェアリリースパッケージ](#)」にある情報を使って、目的のパッケージを判断してから、最新のソフトウェアリリース用のこれらのパッケージをリクエストしてください。
- 送付先情報を用意します。リクエストのためには、連絡先、電話番号、電子メールアドレス、会社名、および送付先住所を提供する必要があります。

▼ 物理メディアのリクエスト(オンライン)

始める前に リクエストを行う前に、37 ページの「[物理メディアのリクエスト用の情報を収集する](#)」に記載されている情報を収集します。

- 1 <http://support.oracle.com> にアクセスして、サインインします。
- 2 ページの右上隅にある「問合せ先」リンクをクリックします。
- 3 「リクエストの説明」セクションで、次を入力します:
 - a. 「リクエスト・カテゴリ」ドロップダウンリストから、次を選択します:
物理メディアのリクエスト(レガシー Oracle 製品、Primavera、BEA、Sun 製品)
 - b. 「リクエスト・サマリー」フィールドに、次を入力します:
Sun Blade Sun Blade X3-2B の最新ソフトウェアリリースの **PMR**
- 4 「リクエスト詳細」セクションで、次の表に示されている質問に回答します:

質問	回答
物理ソフトウェアメディアの送付リクエストですか?	はい
どの製品ラインに関するメディアのリクエストですか?	Sun 製品

質問	回答
パッチのダウンロードに必要なパスワードの確認ですか？	いいえ
CD/DVD でのパッチのリクエストですか？	はい
パッチを CD や DVD でリクエストする場合、パッチの番号、OS とプラットフォームをお知らせください。	該当するソフトウェアリリースのダウンロードごとに、パッチ番号を入力します。
リクエストする製品名とバージョンをお知らせください。	製品名: Sun Blade X3-2B バージョン: 最新のソフトウェアリリース番号。
リクエストするメディアの OS とプラットフォームをお知らせください。	OS 固有のダウンロードをリクエストする場合は、ここで OS を指定します。システムファームウェアのみをリクエストする場合は、「一般」と入力します。
この送付に言語は必要ですか？	いいえ

- 5 送付先の担当者、電話番号、電子メールアドレス、会社名、および送付先住所の情報を入力します。
- 6 「次へ」をクリックします。
- 7 「関連ファイル」の下に **Knowledge Article 1361144.1** と入力します
- 8 「送信」をクリックします。

▼ 物理メディアのリクエスト (電話)

始める前に リクエストを行う前に、37 ページの「物理メディアのリクエスト用の情報を収集する」に記載されている情報を収集します。

- 1 **Oracle Global Customer Support Contacts Directory** にある適切な番号を使用して、Oracle サポートに電話します:
<http://www.oracle.com/us/support/contact-068555.html>
- 2 **Sun Blade X3-2B** の物理メディアのリクエスト (PMR) を行いたい旨を Oracle サポートに伝えます。
 - **My Oracle Support** から特定のソフトウェアリリースおよびパッチ番号の情報にアクセスできる場合は、この情報をサポート担当者に伝えます。

- ソフトウェアリリース情報にアクセスできない場合は、**Sun Blade X3-2B**の最新のソフトウェアリリースをリクエストしてください。

アップデートのインストール

以降のトピックでは、ファームウェアとソフトウェアのアップデートのインストールに関する情報を提供します:

- [40 ページの「ファームウェアをインストールする」](#)
- [41 ページの「ハードウェアドライバと OS ツールのインストール」](#)

ファームウェアをインストールする

更新されたファームウェアは、次のいずれかを使用してインストールできます:

- **Oracle Enterprise Manager Ops Center** – Ops Center Enterprise Controller では、Oracle から自動的に最新のファームウェアをダウンロードするか、Enterprise Controller 内にファームウェアを手動でロードできます。どちらの場合も、Ops Center が 1 つ以上のサーバー、ブレード、またはブレードシャーシ上にファームウェアをインストールできます。

詳細については、次にアクセスしてください:

<http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager/opscenter/index.html>

- **Oracle System Assistant** – Oracle System Assistant では、Oracle の最新のファームウェアをダウンロードしてインストールできます。

詳細は、『[Sun Blade X3-2B \(旧 Sun Blade X6270 M3\) 管理ガイド](#)』の「サーバー構成のための [Oracle System Assistant の使用](#)」を参照してください。

- **Oracle Hardware Management Pack** – Oracle Hardware Management Pack 内の fwupdate CLI ツールを使用して、システム内のファームウェアを更新できます。

詳細については、次にアクセスしてください:<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp>。

- **Oracle ILOM** – Oracle ILOM および BIOS ファームウェアは、Oracle ILOM Web インタフェースおよび Oracle ILOM CLI を使用して更新できる唯一のファームウェアです。

詳細については、次にアクセスしてください:<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>。

ハードウェアドライバと OS ツールのインストール

更新されたハードウェアドライバとオペレーティングシステム (OS) 関連のツール (Oracle Hardware Management Pack など) は、次のいずれかを使用してインストールできます:

- **Oracle Enterprise Manager Ops Center** - 詳細については、次にアクセスしてください:

<http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager/opscenter/index.html>

- **Oracle System Assistant** - 詳細は、『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) 管理ガイド』の「Oracle System Assistant によるサーバーの設定」を参照してください。
- JumpStart、Kickstart、またはサードパーティー製ツールなどのその他の配備メカニズム。

詳細は、使用している OS のドキュメントを参照してください。

索引

B

BIOS

最適なデフォルトのロード

Solaris, 22-23

ブートモード、設定 (Solaris), 23-24

O

Oracle ILOM

リモートコンソールアプリケーション

Solaris, 19-22

Oracle Solaris OS

論理名および物理名によるネットワークインタフェースの特定

sys-unconfig コマンド, 28

Oracle System Assistant, Solaris, 14

Oracle Solaris OS インストール

ドキュメント, 17

ネットワークインタフェース名, 26-29

物理名, 26-29

OS のインストール, Solaris, 11-15

S

Solaris, 「Oracle Solaris」を参照

sys-unconfig コマンド, 28

U

UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) BIOS

ブートモード

Solaris, 23-24

い

インストール

ツールおよびドライバ

Solaris, 29-30

リモートセットアップ (Solaris), 19-22

ローカルセットアップ (Solaris), 18

お

オペレーティングシステム

サポートされているバージョン

Solaris, 12

こ

更新

最新情報

Solaris, 12

さ

最適なデフォルト
ロード
Solaris, 22-23

サポート対象
オペレーティングシステム
Solaris, 12

し

手動による OS インストール, Solaris, 14

せ

設定
BIOS ブートモード
Solaris, 23-24

そ

ソフトウェアおよびハードウェア
情報
Solaris, 12

つ

ツールおよびドライバ
インストール
Solaris, 29-30

と

ドキュメント
Oracle Solaris OS, 17
最新版の取得
Solaris, 12

は

ハードウェアおよびソフトウェア
情報
Solaris, 12

ふ

ファームウェア
更新情報
Solaris, 12
プロダクトノートドキュメント, Solaris, 12

ほ

補助付き OS インストール, Solaris, 14

り

リモートインストール, セットアップ
(Solaris), 19-22

れ

レガシー BIOS
ブートモード
Solaris, 23-24

ろ

ローカルインストール, セットアップ (Solaris), 18